

- 語り合う
- 生命誌の広場
- 中村桂子の「ちょっと一言」
- ラボ日記
- 表現スタッフ日記
- さまざまな交流
- 生命誌のこれからを考える

生命誌の広場

テーマ別に投稿を読む

- 中村桂子の「ちょっと一言」
- 研究について
- 季刊「生命誌」
- 展示・映像
- その他

あなたの考えをお聞かせください

ご意見はこちらから

最新のお返事

- 2019年10月02日 [RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月26日 [アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月13日 [原爆について](#)
- 2019年09月05日 [BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月28日 [この夏一番元気だったものは？](#)

最新のご意見

- 2019年09月27日 [RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月25日 [アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月09日 [原爆について](#)
- 2019年09月05日 [BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月23日 [この夏一番元気だったものは？](#)

過去の書き込み

2019年 10月
GO

みなさんからのご意見

展示・映像

「水と風と生きもの」の感想

投稿日：2016.02.24 名前：丸山 千弥

先日、恵比寿映像祭にて、「水と風と生きもの」を最終日に拝見させて頂きました。中村さんのパワーをととても感じる内容で、演劇を作るにまで至っているのが驚きであり、中村さんの考えの深め方を表していると感じました。心が動かされる思いでした。「生命誌研究館」という概念が初めから浮かんでいたという言葉が映画の中にもありました。まさに演劇的手法というか、表現することや、ものを作ることによって、人が考えたり、世の中が動くということが、とても素晴らしいことだなと改めて思いました。映画と、中村さんのお話を聞いていて、そのことを再確認しました。世の中を良くすること、誰かの気づきになることが、表現によって出来たらと思います。そういった仕事をしていきたいなと思います。

お返事

投稿日：2016.02.24 名前：中村桂子館長

映画を見て下さったとのこと、ありがとうございます。生きもの研究からわかってくる自然・生きもの・人間というつながりがとても面白いと感じており、その気持ちを共有していただきたいという願いから「表現」を続けてきました。それをみごとに受け止めて下さって本当に嬉しく、心からのお礼を申し上げます。「人間が生きものである」というあたりまえのことを基本にした社会になると暮らしやすいのではないかと考えていたします。御一緒に考えたり、活動したりする機会があるとよいですね。

中村桂子の「ちょっと一言」

科学者を考えてみて

投稿日：2016.02.20 名前：畑岡愛佳

こんにちは。私は高校3年生で、大学が決まったところです。大学で何を学ぶかを考えるために本を読み始めました。中村先生の同級生という先生に「科学者が人間であること」という本をいただき、本の内容に感銘を受けたので、投稿してみました。将来は生命工学の科学者になりたいと思って工学部志望したのは良いのですが、その後色々考えるうちに科学は世の中で役に立っていないのではと思い始め、自分は科学者には向いていないかもしれないと感じていました。しかし、先生の本を読み、科学と自然が対立するものではなく、科学を通じて自然の理解、生きることへの考察が深まることに気づきました。また、科学者として専門家内にとどまるのではなく、専門外の人と科学の楽しさを共有できるような科学者になりたいと思いました。これかも色々な人の考えを知り、さらに科学と自然の考察を深めていきたいです。

お返事

投稿日：2016.02.24 名前：中村桂子館長

高校三年生からの投稿、とてもとても嬉しいです。科学は自然を支配するためのものではなく、自然を理解するためのものという大事なことに気づいてこれから勉強して下さるのはすばらしいことです。よく理解したうえで、そ

新着情報



10月19日生命誌オープンラボ (19.10.01)

10月4、5日 生命誌を考える映画鑑賞会(19.10.01)

昆虫脳の標本展示が登場！(19.10.01)

パラパラめくる生命誌3ダウンロード開始(19.10.01)

あくあびあ芥川とスタンプラリー開催(19.10.01)

れを生かしていく方法を考えるとこれまでにない新しい技術を生み出すことができるのではないかと期待します。これからも考えたことをどんどん投稿して下さい。お返事を書くのが楽しみです。

その他

極端な肩書社会になっている

投稿日：2016.02.07 名前：國田 充

中日新聞H28年2月3日の中村先生の記事、拝読させていただきました。過去の記事は全て切り抜きをしています。そして記事を見ては二三日考えています。今回の「心を働かせてこそ人間」を読み、ぜひ先生に73歳の私の思いをぶつけてみたくて投稿しました。

特に昨今は「数値での競争」が突出し、社会はまるでキチガイ集団です。本来、資本主義とは人間社会いやこの世にあるもの全てが幸せになれるための一手段として生み出されました。なのに今や手段が目的化して暴走しています。血肉の無い極端な名刺肩書社会の出現です。そこには人間が見えません。「〇〇社長」であっても家に帰れば「〇〇さん」であるはずですが、肩書が世の大部分を決断しています。そしてむなしいのはそのことが進歩だと思っている人が多いことです。特に世の全ての指導者層に。

新自由主義、グローバリズムこそが人間を幸せにする唯一の行動規範だと。会社がその主義のもとでの決算に変わった頃からおかしくなってきました。単年度最高益を出すことこそが経営者の第一の使命であり、その結果が社会に認められる唯一の指標であると。そのためには人は人でなく一道具であると。そういう経営者が評価される世の中。寂しいですね。

先生がテレビのコメンテーターに出てらして、議論がかみ合わないことを承知で発言をされていました。マスコミも完全に無知。右か左かだけで切るのではなく斜めに切ることもやってみないと。宗教家とは違う先生の提言に大賛成です。議論がかみ合う時代が来ることを祈念し感謝です。

お返事

投稿日：2016.02.08 名前：中村桂子館長

コメントありがとうございました。グローバリズムへの疑問、おっしゃる通りで同じ思いの方がいて下さることとてもありがたく思います。私のまわりだからかもしれませんが、同じ思いはそれほど少なくない方の中にあるように思います。少しずつ変わっていくことを願って地道に行動していくつもりです。お仲間としてよろしく願いいたします。

2月9日のNHKの視点・論点で『「ふつう」の生き方を』という話をします。こんなことわざわざ言うおかしさを感じながら、でも必要かなと思っています。

その他

NHK「北里柴三郎」でのご発言に感激です

投稿日：2016.02.04 ニックネーム：miz

中村桂子先生へ

つい先程、NHKBSプレミアム「北里柴三郎とその弟子たち」というトーク番組を見たところです。番組の後半で、北里三郎博士の研究所が内務省管轄から文部省（東大）に移管するという命が下った際のことが紹介されました。番組の司会者が、「この事態に際し、北里博士は文部省管轄になることを決意したか？それとも、拒否して野に下る決断をしたか？・・・どちらだと思いますか？」と質問しましたね。

その問に対する中村桂子先生の答えがすばらしかった！！・・・科学者であり人である北里博士の心を読まれての毅然とした発言でした。こんな芯の通ったことを言う女性がおられるのだと、私は聞き入ってしまいました。～結局、北里博士は権威を選ばず、野に下って民間として研究を続ける道を選んだということでした。

番組終了後、早速、中村桂子先生とはどんなお方かとネット検索。私と同年代の方かと思ったのですが、年上の方でした。・・・う～む、む。・・・この投稿欄に出会ったので、少々長いメールを書かせていただきました。これを機会に、桂子先生のお人柄と知性に、いい意味で感化されたいと思っています。

お返事

投稿日：2016.02.09 名前：中村館長

北里のこと、ありがとうございます。以前ちょっと本を書いたりもしたもの

ですから、参加しました。明治の人は気骨があってよいですね。今こういうことがとても大事だと思っています。権力に迎合して流されないようにしたい。小さい活動ですが、そんな思いで行なっています。これからものぞいてみて下さい。そして御意見書き込んで下さい。

その他

進化研究を覗くを読んで

投稿日：2016.02.03 名前：岡野桂子

難しい所は棚上げにして、時には我慢して読ませていただいていたいました。しかし、途中からワクワクしながら読むようになりました。一大叙事詩、マップ状だったゲノムがいつのまにか動きだして生きもののように感じられるようになったのです。生命の生まれる場面、DNAの変遷、私の持っているこのヒトゲノムがこのようにして生み出されて来たのかと。そして、このゲノムの物語自体も新しい知見により修正を受けたり新たな展開を見せたり興味は尽きません。理解がどれ程できているか不安なところですが、毎回楽しみにしています。生命と水とのかかわり、そんなお話ももっと出てこないかな、渦、乱流、不思議がいっぱいの世界、私たちに伝えてくださること感謝にたえません。

お返事

投稿日：2016.02.05 名前：西川伸一顧問

これ以上の励ましはありません。ありがとうございます。
生命誌研究館で焦点を当てている一つの分野がゲノムと言うことで、自分の頭の整理のために書き始めました。「ゲノムの発生学」に入ってから、書いている本人も混乱の極みで、読者の皆さんに申し訳ないと思いながら書いています。しかしまだまだ続きますので、今後もよろしくおつきあいください。

生命誌研究館とは別に仲間とNPO(aasj.jp)を設立して、21世紀を担う若者の教育のための活動をしています。内外の大学で「21世紀の生物学：デカルトとダーウィンの残した課題」という題で講義をするのが中心ですが、市民の会にも手弁当で出かけています。勉強会もつきあえるかもしれませんから、遠慮なく声をおかけください。



中村桂子の「ちょっと一言」

夢の橋

投稿日：2016.02.03 名前：岡野桂子

崔さんのプロジェクトのニュースは本当にうれしいニュースでした。自然の中の生きものとしての視線。国際情勢や経済、人間の大人が作り上げた人間社会にどっぷり浸かっていると、失いがちな視線。子供の夢と映るのでしょうか。38度線が睨み合いの場所ではなく、生きものがその生命をはぐくむことができる地球のすばらしさを教えてくれる場所となれば、そこはきっと世界のみんなの宝物になるのではないのでしょうか。自然としても文化としても。夢を実現可能なかたちとし現実の中に組み込んでいく仕事、大人が真剣に取り組み子供たちに残せるとしたらどんなにいいだろう。どのように応援していいかわかりませんが、とにかく応援してます。

お返事

投稿日：2016.02.05 名前：中村館長

応援ありがとうございます。北朝鮮の「ミサイル」騒動で、国際情勢の危うさを言い立て、武力の方へ話を持っていく今の動きを見ているととても浅薄に見えます。戦いの中で暮らす一人一人の人間のことを考えると、理屈抜きで武力の方向は止めるという答になるはずですから。少しづつでもできることをやっていくことですね。



中村桂子の「ちょっと一言」

Dreams of Earth

投稿日：2016.02.02 ニックネーム：おかげさま

2/1のけいこ先生の記事、大変、嬉しかったなあ!!!と、思っています。

そして、再度86号も読み、より喜びも嘸み締めました。

女性の人生の大先輩であるおふたりのトークは、ほんとに気持ちがいいです。

全て肯定ですが、中でも

『風に種を蒔いてもらう際、どの種がよいか。
その生態系をよく理解しないと決められない。
それを実行するのが、本当の科学』

というけいこ先生のトークが、私は好きな所です。

今、身近な国内でも、山や森は、現在経済にならず、放置されている所もたくさんあり、昔は暮らしと共に山や森の手入れも行われていましたが、現代は手入れもない代償として、生態系崩壊も徐々に進んでいると思います。
その再生を考えたとき、その土地の特性を知り、そこでの生態系をよく理解し、手入れの仕方を考えないと、前には進めなかつたりしていますので。
実行する科学が、Dreams of Earthをはじめ、生態系再生には、ほんとうにカギになってくるように、私には思えます。

ほんとに、そんなことを考えながら、実践、実行でき、生態系が整ってゆく経過を、見守ってゆく時間の流れが、楽し過ぎます。

ありがとうございます！！

お返事

投稿日：2016.02.04 名前：中村桂子館長

こちらこそ応援ありがとうございます。
崔さんのプロジェクト、大変ですけれどビエンナーレの準備は着々と進んでいます。遠くを見ながらゆったりと進めていくことになるのでしょうか、とにかく一歩ずつでも進むことが大事ですね。方向が大事。間違っても戦いの方へ行ってはいけません。
これからもよろしく願いいたします。

▲ ページの先頭へ